

当日は、本田技研工業株式会社・安全運転普及本部から2人の講師が来校してくださいました。同社が開発した「中学生・高校生への自転車教育指導マニュアル」に沿って、本校教員が指導するという流れで授業が展開しました。同マニュアルには下記のように記述されています。

「…このマニュアルは、中学生・高校生の自転車による交通事故の減少を目的として作成しました。実際の事事例などをもとに「生徒自らが考える」ことを主とする指導方法や、自転車に乗る際に守らなければならない交通ルールを紹介しています。将来に渡ってより良い交通社会人となっていくために、交通安全意識の向上や、他の交通参加者への思いやりを身につけていただきたいと思います。中学校・高等学校の教育現場でご活用いただければ幸いです。」



まず5時限目、体育館でパワーポイントを使った全体指導を受けました。具体的な事例を取り上げ、生徒参加型の講話が行われました。指導しているのは、本校の教員です。

6時限目、各教室で指導資料にもとづきグループディスカッションによる授業を行いました。

【生徒の感想より】

○意見を出し合ってみた結果、みんなとほとんど同じ意見だった。また、みんなで話し合うことによって、これからも交通に気をつけながら走行しようと思った。〈1組女子〉

○とても参考になった。みんなの意見を聞くことができ、自分も気をつけようと思った。「ながら」って怖いと改めて思いました。〈1組女子〉

○今日の講話で、人と接触したり事故を起こしたりすると、多額の賠償金が発生することを知らされました。家族に迷惑をかけないように心がけようと思います。また、弟が危なっかしいので注意したいです。〈4組男子〉

○自転車に乗る時は、周りのことを考えて動くことがとても大切なことなんだと改めて思いました。事故を起こすと賠償金が生じてしまうので、事故にあわないようルールはきちんと守ることをこれからも意識していきます。〈4組女子〉



当初の予定では年次を半分に分けて、

〈5時限目〉体育館での講話 → 〈6時限目〉校庭で実技指導

〈6時限目〉校庭で実技指導 → 〈5時限目〉体育館での講話

の2展開を予定していました。ところが、当日はあいにくの雨空…。急遽、上記の展開に変更して実施しました。ところが、各クラスの話し合い活動は大変活発で、参観していた教員からは、今後のホームルームの授業展開にこの流れをうまく活用しては、という意見もありました。アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業実践ともなりました。

本田技研の講師の方々にはお忙しい中、ご来校・ご指導いただき、ありがとうございました。さらに、交通事故の予防と生徒の安全意識の向上に取り組んでいきたいと思ひます。